

草原がつなぐ人・自然・文化

# 全国草原再生ネットワーク

ニュースレター vol.55 (Jul. 2023)



鏡ヶ成に映えるオミナエシと烏ヶ山（鳥取県日野郡江府町／鏡ヶ成保全再生活用協議会提供）

## 「未来に残したい草原の里 100 選」第 2 回選定地域が決まりました

全国草原再生ネットワークでは、全国草原の里市町村連絡協議会(全国草原の里自治体ネットワーク)と協力して、全国に残る草原とその里に光を当て、次世代へ受け継ぐため、「未来に残したい草原の里 100 選」の選定事業を行っています。2022 年 3 月に第 1 回の選定が行われ、全国から 34 箇所の草原の里が選定されました。

第 2 回の募集は 2022 年 10 月 18 日から 2023 年 1 月 10 日の期間で行われ、全国から 14 件の応募がありました。運営委員による一次審査を経た後、2023 年 3 月 30 日に、東京都内にある全国町村会館を会場に、選考委員会が開催されました。草原の状況に

ついて書かれた応募資料などをもとに、選定の可否などについて議論が行われました。各選考委員からは、応募のあった草原の魅力などが語られるなど、今後の草原保全への的確なアドバイスもありました。選考委員会の結論として、応募のあった 14 箇所全てを「未来に残したい草原の里 100 選」として選定するという結論に至りました。

その後、全国草原の里市町村連絡協議会の総会で承認されて、第 2 回の選定地として 14 箇所の草原の里が決定しました。

これら 2 回の選定を経て、草原の里の総数は全国で 48 箇所となりました。

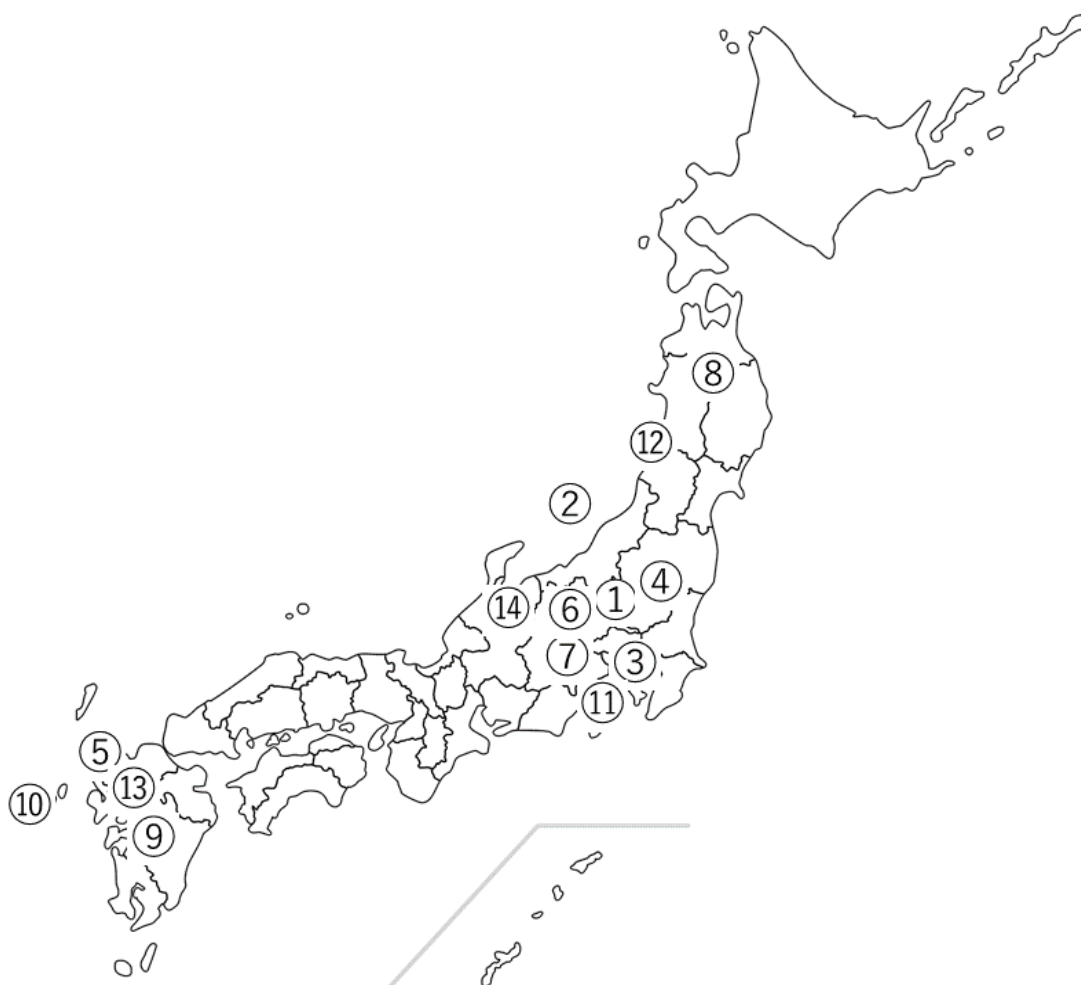
### 未来に残したい草原の里 100 選 選考委員会名簿 (50 音順、2023 年 3 月 30 日時点)

氏名	所属・職
安藤 邦廣	筑波大学名誉教授、(一社) 日本茅葺き文化協会代表理事
岩井 茂樹	全国草原の里市町村連絡協議会会長、静岡県東伊豆町長
高橋 佳孝	(一社) 全国草原再生ネットワーク代表理事
河野 博子	ジャーナリスト、(一財) 自然環境研究センター理事
長沢 裕	タレント、(公財) 日本環境教育フォーラム理事
町田 怜子	東京農業大学教授
湯本 貴和 (委員長)	京都大学名誉教授
養老孟司	東京大学名誉教授



選考委員会の様子

番号	草原の里名称	所在市町村
1	利根沼田自然を愛する会 (とねぬまたしぜんをあいするかい)	群馬県沼田市
2	ドンデン高原 (どんでんこうげん)	新潟県佐渡市
3	田島ヶ原サクラソウ自生地 (たじまがはらさくらそうじせいち)	埼玉県さいたま市
4	鋳山 (はさみやま)	福島県南会津町
5	中瀬草原 (なかぜそうげん)	長崎県平戸市
6	菅平高原・峰の原高原 (すがだいらこうげん・みねのはらこうげん)	長野県上田市、須坂市
7	霧ヶ峰 (きりがみね)	長野県諏訪市、茅野市、下諏訪町
8	八幡平市 安比高原ふるさと倶楽部 (はちまんたいし あっぴこうげんふるさとくらぶ)	岩手県八幡平市
9	西原村 (にしはらむら)	熊本県西原村
10	五島・鬼岳 (ごとう・おにだけ)	長崎県五島市
11	箱根の仙石原 (はこねのせんごくはら)	神奈川県箱根町
12	冬師湿原 (とうししつげん)	秋田県にかほ市
13	城と翁とスキーの基山の草原 (しろとおきなあとすきーのきざんのそうげん)	佐賀県基山町
14	相倉 (あいのくら)	富山県南砺市



## ネットワークの総会が開催されました

一般社団法人全国草原再生ネットワークの第3回定期総会が、2023年7月7日に島根県大田市内で開催されました。新型コロナウイルスの感染状況がおさまらないことから、今回も対面での総会は見送り、基本的には書面での表決とし、数名の会員の出席のもと、開催されました。

現在の総会員数57名のうち、本人出席が4名、委任状が15名、書面表決が26名の、計45名の出席でした。

主な議案は、2022年度の事業報告と決算報告、2023年度の事業計画および予算でした。いずれの議案に対しても、全員の賛成が得られ、すべて可決されました。

2022年度の事業報告の中では、全国草原の里市町村連絡協議会（全国草原の里自治体ネットワーク）と協力して実施した「未来に残したい草原の里100選」に関連して、記念シンポジウム開催への協力、34箇所の草原の里を紹介した冊子の発行、第2回選

定のための応募や選定の作業などを行うとともに、当ネットワーク独自でも広報や普及に取り組みました。

2023年度の事業計画の中では、引き続き「未来に残したい草原の里100選」に関連して、昨年度選考された14箇所の草原の里を紹介する冊子の発行、授与式を兼ねたシンポジウムの開催、第3回の募集などを行う予定です。まだ応募されていない地域からの応募を期待していますので、会員のみなさまにおかれましては、ご協力をお願いいたします。

また報告事項として、「第14回全国草原サミット・シンポジウム in おたり」を2024年10月4日（金）、5日（土）に開催することが決まり、第1回の開催実行委員会が6月22日に小谷村役場で開催されたとの報告がありました。

なお、総会の詳細については、総会に先立ち送付しました資料一式、総会後にメールで送付しました総会議事録をご覧くださいと思います。

### 未来に残したい草原の里100選フォーラムのお知らせ

「未来に残したい草原の里100選」の第2回の選考で、全国から14箇所の草原の里が選定されました。このたび、授賞式を兼ねたフォーラムを、全国草原の里市町村連絡協議会（全国草原の里自治体ネットワーク）と協力して、以下の日程で開催することとしました。詳細が決まりましたら、改めてお知らせいたします。

【期日】2023年10月12日（木）13:00～17:00

【場所】東京都内（調整中）

【主催】全国草原の里市町村連絡協議会 【協力】（一社）全国草原再生ネットワーク ほか

【内容】第一部 記念講演および認定証授与式（全草原の里に認定証をお渡しします）

第二部 記念フォーラム（草原の里活動事例発表会）

終了後に情報交換会も予定しています。

## 第 14 回全国草原サミット・シンポジウム in おたり

### 第 14 回全国草原サミット・シンポジウム

(澁谷祥充：長野県小谷村)

長野県小谷（おたり）村は長野県の最も北西部に位置し、新潟県と境を接している村です。西には北アルプスがそびえ、山麓はスキー場や高層湿原や茅場の草原が広がっています。特に「牧の入茅場」は小谷村に 6ha もあるカリヤスの茅場で、現在でも春には野火つけ（火入れ）、秋になると茅の刈り取りが行われています。このような背景のもと、2024 年（令和 6 年）の 10 月 4 日（金）、5 日（土）に小谷村において「第 14 回全国草原サミット・シンポジウム in おたり」が開催されることが決まりました。

6 月 22 日（木）、その第 1 回目となる実行委員会が開催され、会長である中村村長はじめ、草原や茅場の研究者、地権者や管理団体、商工会や地区の観光協会の代表者らが顔を揃え、草原サミット・シンポジウムの概略や事業計画、予算などについて論議を深めました。

ユネスコ無形文化遺産にもなっている「茅葺き」や「茅採取」の技術や文化が小谷村には根付いています。この茅の文化を全国に発信するとともに、全国の草原を維持する自治体や関係団体の方々が小谷村に一同に会し、技術や知恵を次世代に伝えていく上での課題を語り合う大会にしたいと位置づけました。

小谷村はほかにも全国的に知られているスキー場や温泉、そして、貴重な塩の道などの史跡や民俗芸能などもあり、まさに小谷全体が野外博物館のような様相を呈しています。宿泊施設も充実しています



カヤ立ての様子



野火つけの様子

ので、草原サミット・シンポジウムに多くの皆様をお迎えし、小谷の素晴らしさを知ってもらえるよう、準備をしていきたいと思っています。

## 各地からの報告

### 鏡ヶ成での取組

(井上雄人：大山隠岐国立公園管理事務所・鏡ヶ成保全再生活用協議会事務局)

大山隠岐国立公園内にある鏡ヶ成は中国地方最高峰「大山」の南東に位置し、三方を烏ヶ山、象山及び擬宝珠山に囲まれた盆地状の高原です。山地湿原の少ない鳥取県では貴重な標高約 900mの湿原と、ススキを主体とした草原が広がっています。湿原ではノハナショウブやコオニユリ、バイケイソウが見られ、湿原中央の池では毎年モリアオガエルの産卵が見られます。草原ではノアザミ、ヨツバヒヨドリ、オカトラノオが特に多く、ササユリやナルコユリ、オミナエシも見られます。ウラギンヒョウモン等のヒョウモンチョウ類やヒメシジミも多くみられ、初夏にはアサギマダラが飛来します。

明治時代以前には利用はほとんどありませんでしたが、1898年に陸軍の軍馬育成場が造られてからは放牧地や採草地として利用されるようになり、戦後しばらくはこのような利用形態が続いていたと考えられています。その後、1956年に大山隠岐国立公園の集団施設地区に指定され、1963年に開業した国民休暇村（現在の休暇村奥大山）をはじめ、キャンプ場、スキー場等が整備された利用拠点となっています。

#### ○鏡ヶ成での取組の経緯

鏡ヶ成の自然環境について、環境庁（現在の環境省）で初めて正式に調査を実施したのは 1989年のことです。当時休暇村スキーリフトの整備に伴い鏡ヶ成の保全への関心が高まっており、環境庁が鳥取

大学等の専門家に依頼して、植生調査を実施しました。調査の結果、当時すでに湿原で乾燥化が進行している状況でした。

1994年、植生保全のため、環境庁が湿原への木道設置を計画しました。これに伴い、木道設置の計画を検討する目的で、環境庁や関係団体からなる「奥大山を語る会」が設立されました。同会での検討結果を踏まえて、1996年には鳥取県の事業にて裸地部分へのノハナショウブの株分けや灌木の影になり弱っている湿性植物の移植等を実施しています。

2000年から2002年までの3ヶ年で、環境省にて「鏡ヶ成保全管理方針検討調査」を実施しました。この事業では、湿原においては土嚢を使った堰を設置し湿原植生の回復効果を検証し、草原においては試験区を設けて刈払いの時期や刈った草の取扱（搬出、刈り捨て）、火入れの有無を比較して管理手法を検討しました。この調査では、湿原においては湿潤環境が形成される過程でありモニタリングの継続が必要であるという結果となり、草原においては7月に高刈り（刈り捨て）を実施する管理手法が、効果と労力の両面から考えて最も妥当であるという結論となりました。

2003年からは5ヶ年で環境省にてグリーンワーカー事業「鏡ヶ成草原の景観保全管理作業調査」を実施しました。2002年までの事業で設置された土嚢堰については継続してモニタリングを実施し、草原試験区については7月に高刈りを実施しました。草原



オミナエシと烏ヶ山



ヒメシジミ



象山から見た鏡ヶ成

試験区では、3年目にはスミレ類、ノアザミが増加し、草刈りの効果が確認されました。しかし土嚢堰を設置した湿原については、思うように湿原植生が回復しませんでした。

2007年までの事業終了後も、環境省事業として自然再生活動が継続して実施されていました。2015年には、鳥取大学日置教授（当時役職、以下同様。）を招き、植生や水質、地下水位、日射量とこれらの相互関係について改めて詳細な調査を実施しました。この結果、湿原植生が保たれているのは中央のごく一部のみで、それ以外の場所では地下水位の低下やササや灌木の侵入による光環境の悪化により湿原とは言えない状態となっていることが明らかになりました。

これを受けて、2016年からは環境省と鳥取大学と協働での自然再生事業が始まりました。この事業では、春秋2回の草刈りや堰の設置、小規模な切土・盛土による地下水位の上昇を図りました。その結果、ノハナショウブやトキソウ等が生育する湿性植物群落が拡大しました。

2018年には試験的に山焼きを実施しました。山焼きをしない区域、山焼きのみの区域、山焼きと選択的草刈り（ススキ、低木類を刈り取る）の併用区域の3つの区域を設け、比較を行ったものです。山焼きと選択的草刈りの併用区域で最も草原性植物の増加が顕著であるという結果になりました。

#### ○協議会発足の経緯

山焼きと選択的草刈りの併用が効果的であるとの結果から山焼き実施の機運が高まり、人手を要する山焼き作業を本格化するため、体制の組織化が求められるようになりました。そして2019年3月には、鏡ヶ成に水源を持つ「サントリー天然水奥大山ブナの森工場」を所有するサントリーホールディングス



山焼きの様子

（株）、地元自治体である江府町、鏡ヶ成集団施設地区を管理する環境省の3者間で鏡ヶ成の保全、再生および活用に関して協働を進めることを目的とした協定が締結されました。このような自然環境の保全等を協働で進めることを目的とした協定は、当時全国の国立公園で初めての事例でした。

そして協定締結と同日に、産（サントリーホールディングス（株）、サントリープロダクツ（株）、（一財）休暇村協会、（一財）自然公園財団）、学（鳥取大学、鳥取県立大山自然歴史館）、官（環境省、鳥取県、江府町）で構成される鏡ヶ成保全再生活用協議会が発足しました。現在ではこの協議会が鏡ヶ成の活動の中心となり、春の山焼きや初夏の選択的草刈り、秋の防火帯作り等をボランティアの協力も得ながら実施しています。また協議会を年2回開催し、活動の方針・内容の検討や各構成員による活動の共有を行っています。

#### ○協議会の現在とこれから

現在、構成員の退職等を踏まえた体制の維持拡充が課題のひとつとなっています。昨年度は年2回の協議会に加えてワークショップを実施し、目指すべき鏡ヶ成の姿や課題、それに対する取組内容について構成員で話し合い、鏡ヶ成の将来ビジョンをとりまとめる作業を行いました。今年度の協議会では、昨年度の結果を踏まえてビジョンを具体化し、公表できる形に整理し、より多くの方に鏡ヶ成の活動に関心をもっていただきたいと考えています。

また「令和5年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰」にて、当協議会の会長である鳥取大学日置教授が、鏡ヶ成をはじめ全国各地での自然再生に関わる各種活動が評価され、環境大臣賞を受賞しました。日置会長からも「これは協議会皆で取った賞である」とのコメントもいただき、これまで取

り組んできた協議会構成員にとっても活動の励みとなる受賞となりました。

今後も、将来ビジョンのもとに活動を継続し、多



6月に実施した授与式の様子

様な動植物が生息・生育する魅力的な鏡ヶ成を保全・再生するとともに、環境教育や観光への活用を図っていききたいと考えています。



協議会構成員の皆さん

## 書籍などの紹介

### 「愛しの生態系」

植生学会 編 前迫ゆり 責任編集  
文一総合出版 定価 3,000 円（税別）  
出版社の書籍ページ：

<https://www.bun-ichi.co.jp/news/tabid/tabid/57/pd/id/978-4-8299-7109-3/Default.aspx>

植生学会に関わる研究者たちが日本各地の自分の自慢のフィールドについてわかりやすく紹介した『愛しの生態系 研究者とまもる「陸の豊かさ」』が出版されました。全国 30 カ所のフィールドの研究成果が、それぞれ 6 ページ程度にまとめられており、きれいな写真と一緒に楽しく読める内容になっています。日本各地の研究成果が「世界遺産の生態系」「火山の国の植物たち」「海と植物」「寒さと植物」「樹木のない自然」「シカの脅威を考える」「人のくらしとともに」の 7 つの章に分けられて紹介されていますが、宮崎県の都井岬の放牧地、北海道の小清水原生花園、熊本県の阿蘇の草原、兵庫県の但馬・淡路島の畦畔、静岡県のお茶草場、長野県の牧ノ入茅場と草原生態系の話もたくさん出てきます。横川は阿蘇グリーンストックの増井太樹さんと一緒に阿蘇の草原のことを書きました。

非常に大事な点と思うのは、この本は草原に限らず各地の生態系が幅広く紹介されている点です。普段は草原で活動されている方々が、草原も含



めた各地のいろんな生態系やその保全にまつわる事例をまとめて参照することで、各自の活動の中での考え方などに幅が出るのではないかと思います。

後半には日本の植生について概説された章や用語解説もあります。草原の管理や再生には植生学的な考え方は重要になりますが、こういった教科書的な記述も草原のことを考える基礎になると思います。

ぜひ手に取って読んでいただければ幸いです。

<横川昌史：京都府在住>

「BIOCITY 95号 世界の茅葺きの新潮流 復活する循環と再生のための建築」

株式会社ブックエンド 定価 2,750 円 (税込)

出版社の書籍ページ:

<https://www.bookend.co.jp/biocity-95/>

一般社団法人日本茅葺き文化協会が企画監修をして、2019年に白川村で開かれた国際茅葺きフォーラム

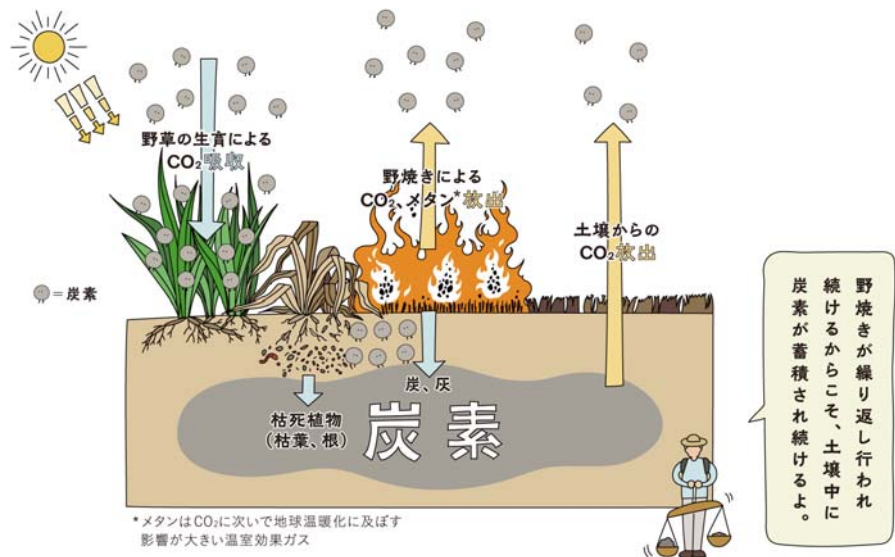
の発表内容をもとに、各国の最新の茅葺き情報を加えて編集されたものです。本特集は、(1)海外の茅葺きの新潮流、(2)日本の茅葺き、(3)茅葺きの国際比較の3つの章から構成されています。全ページカラーで、美しい茅葺き建築を堪能できます。

「草原再生イラスト集」

環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所

掲載ページ: <https://aso-sougen.com/learn/>

阿蘇草原再生協議会により、草原再生にまつわるイラストデータが作成されました。阿蘇草原の恵みに加え、阿蘇草原の特性などもイラスト化されています(右上は生物多様性、右下は炭素固定のイラストです)。商業利用以外は、プレゼン資料やパンフ作成などに自由に使用できるとのことです。



## 草原をめぐる動き（2023年7月～2023年10月）

- 7/1 乙女高原自然観察交流会④ 谷地坊主の観察会  
（場所：山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先：乙女高原ファンクラブ）
- 7/11 花と昆虫のリンク調査（場所：山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先：乙女高原ファンクラブ）
- 7/15-16 防火帯の刈払いと歩道整備（場所：群馬県みなかみ町、連絡先：森林塾青水）
- 7/15 夏のササ刈り（場所：兵庫県神戸市 東お多福山、連絡先：東お多福山草原保全・再生研究会）
- 7/17 東お多福山 月例観察会（場所：兵庫県神戸市 東お多福山、連絡先：東お多福山草原保全・再生研究会） 8/19, 9/18 も開催
- 7/25 ミヤマキリシマ保全活動（場所：田代原トレイルセンター、連絡先：NPO 法人奥雲仙の自然を守る会）
- 7/22 遊歩道の草刈り（場所：山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先：乙女高原ファンクラブ）
- 7/22 夏の案内活動（場所：山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先：乙女高原ファンクラブ） 7/23, 7/29, 7/30, 8/5, 8/6 も開催
- 7/30 野焼き支援ボランティア初心者研修会（場所：熊本県阿蘇市 阿蘇草原保全活動センター草原学習館、連絡先：公益財団法人阿蘇グリーンストック）
- 8/5 乙女高原自然観察交流会⑤ マルハナバチ調べ隊2（場所：山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先：乙女高原ファンクラブ）
- 8/6 刈払機安全講習会（場所：熊本県阿蘇市 農村公園あびか北側駐車場、連絡先：公益財団法人阿蘇グリーンストック） 8/20, 8/22 も開催
- 8/18-19 定例活動④ 植生調査（場所：群馬県みなかみ町、連絡先：森林塾青水）
- 8/20 阿蘇世界文化遺産登録推進東京シンポジウム（場所：東京都千代田区永田町 全国町村会館ホール、連絡先：熊本県文化企画・世界遺産推進課）
- 9/2 乙女高原自然観察交流会⑥ マルハナバチ調べ隊3（場所：山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先：乙女高原ファンクラブ）
- 9/2 八幡湿原夏の植物観察会（秋）（場所：広島県山県郡北広島町千町原、連絡先：西中国山地自然史研究会）
- 9/16 霧ヶ谷湿原の植物観察会（場所：広島県山県郡北広島町千町原、連絡先：西中国山地自然史研究会）
- 9/17 秋の七草観察会（場所：島根県大田市三瓶山西の原、連絡先：島根県立三瓶自然館）
- 9/24 深入山の植物観察会（場所：広島県山県郡北広島町千町原、連絡先：西中国山地自然史研究会）
- 9/27 東お多福山秋の植生調査及び外構の笹刈り（場所：兵庫県神戸市 東お多福山、連絡先：東お多福山草原保全・再生研究会）
- 10/7-8 ミズナラ林の間伐と遊歩道整備（場所：群馬県みなかみ町、連絡先：森林塾青水）
- 10/7 自然観察交流会⑦（場所：山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先：乙女高原ファンクラブ）
- 10/28-29 上ノ原の茅刈り（場所：群馬県みなかみ町、連絡先：森林塾青水）

※予定が変更になる場合があります。上記以外の情報もホームページで随時公開しています。

### 全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol. 55 2023年7月号

一般社団法人全国草原再生ネットワーク事務局  
〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 378-14  
大田市ゲストハウス雪見院内 Tel. 0854-82-2727 Fax. 0854-86-8899

【編集後記】草原 100 選の 2 回目の選定が終了し、合計 48 箇所の草原が選定されました。引き続き募集・選定が行われますので、未応募の草原をご紹介頂くなど、会員のみなさまのご協力をお願いいたします。また、10 月には記念フォーラムも開催します。多くの方のご参加をお待ちしています。